

名古屋市立大学 医学部附属病院

大学病院ダイジェスト2024

名古屋市立大学病院

名古屋市立大学医学部附属

東部医療センター

名古屋市立大学医学部附属

西部医療センター

名古屋市立大学医学部附属

みどり市民病院

名古屋市立大学医学部附属

みらい光生病院



明るい未来を切り拓く

名古屋市立大学の5つの医学部附属病院をご紹介します

名古屋市立大学病院



東部医療センター



西部医療センター



みどり市民病院



みらい光生病院



2025年4月
名古屋市総合リハビリ
テーションセンター
附属病院の大学病院化を
予定しています

名古屋市立大学は8学部7研究科の総合大学です

- 医学部・医学研究科 ● 薬学部・薬学研究科 ● 経済学部・経済学研究科 ● 人文社会学部・人間文化研究科
- 芸術工学部・芸術工学研究科 ● 看護学部・看護学研究科 ● 総合生命理学部・理学研究科 ● データサイエンス学部

救急災害医療センター

救急医療機能の強化、災害医療機能の強化及び救急・災害に関する医療人を育成するための機能の強化を主軸とした新棟、「救急災害医療センター」を建設いたします。開棟は2025年夏頃を予定しています。



救急災害医療センターは
地下1階、地上8階建て。
延床面積27,600㎡を誇り、
救急災害医療施設として
日本最大級となる予定です。

- ▶ 救急搬送10,000件／年に対応できる救命救急センターを設置
- ▶ 災害時に約300床の仮設病床スペースを確保
- ▶ 巨大地震時に建物の揺れを軽減し、診療機能を維持するための免震構造

SDGsにも対応した取り組みを実施します

エントランスホールには地中熱を利用した空調システムを導入します。エアコン冷房運転時の室外機の放熱（暖房運転時は吸熱）を地中で行うことで、高効率で省電力な空調が可能です。CO₂の排出量を低減でき、ヒートアイランド効果の抑制につながる再生可能エネルギーシステムを採用しています。



名古屋市立大学理事長

郡 健二郎

地域医療と共に歩む名市大の附属病院群

2023年4月、名市大に5つの附属病院群が誕生しました。3年前に開設した東部・西部医療センターと、昨春に開設したみどり市民病院・みらい光生病院が、名古屋市立大学病院と連携して、地域から信頼される附属病院群を目指し努めてまいります。また、2025年4月には、名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院の医学部附属病院化を予定しています。引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。

5附属病院群の特徴は、高度急性期から慢性期医療までの多種多様な医療を5附属病院群が協調して提供できることです。超高齢社会において必須となるこの医療スタイルを「なごや医療モデル」と私たちは呼んでいます。

私たちは、「なごや医療モデル」を地域医療機関や介護事業者、名古屋市など行政機関からのご指導とご協力を得ながら完遂させ、優れた医療人の育成と先端的研究を遂行し、全国初の医療モデルとして発信したいと考えております。

次に、5附属病院の特色をご紹介します。**市立大学病院**では、2025年夏開棟に向けて「救急災害医療センター」を建設中です。わが国最大規模の施設で、大震災時にも手術・透析・出産が可能で、約300床の仮設病床を確保しています。**東部医療センター**では、従来までの「断らない救急」、感染症、心臓・脳血管センターに加えて、血液・腫瘍内科、精神科、産婦人科、

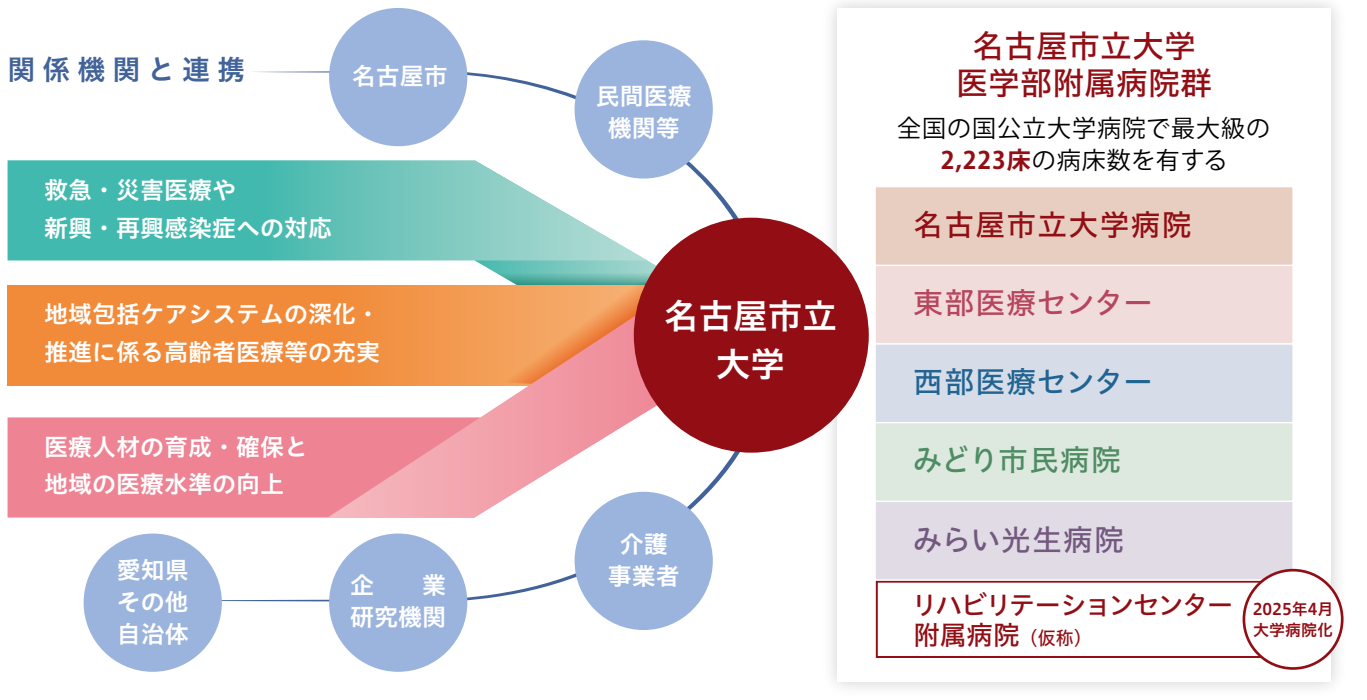
耳鼻いんこう科などに新たに教授を迎え、がん治療にも力を入れはじめています。**西部医療センター**では、陽子線医療、周産期医療、脊椎外科に加えて、昨夏には女性不妊症のみならず、全国で珍しい男性不妊症を治療する生殖医療センターを創設しました。**みどり市民病院**では、緑区民の積年の願いであった地元で完結する二次救急を担っています。十分な規模の病院とは言えませんが、他の病院と連携して高度医療を遂行します。**みらい光生病院**では、7つの症候群に対して専門医療センターを設け、関連する診療科が協調してワンストップで診療しています。回復期リハビリを設け、認知症、フレイル、脱メタボ、アンチエイジングなどに期待されています。

名市大の附属病院群は地域の皆さまと共に歩んでまいります。ご支援をお願い申し上げます。

名古屋市と連携し、「なごや医療モデル」における取組みを推進します

なごや医療モデル

市民が求める安全・安心な医療・介護サービスの提供体制を構築



現在、名古屋市では、高齢化の進展状況やその他名古屋市が抱える諸課題を解決するため、名古屋市立大学の機能を最大限活用しながら、民間医療機関をはじめとする関係機関とともに市民が求める安全・安心な医療・介護を提供する「なごや医療モデル」を構築しています。名古屋市立大学は、2025年4月に新たにリハビリテーションセンター附属病院（仮称）を迎え、新たな附属病院群として有する2,223床の病床数をいかして、高度急性期から慢性期まで幅広い医療を提供するとともに、地域の医療ニーズに的確に対応した質の高い先進的な医療を提供します。

また、健康長寿に資するより効果的な治療方法などの研究成果の還元や地域包括ケアシステムの推進、優れた医療人の育成等を通じて地域の医療・介護の充実を図ることで、名古屋市と連携しながら、「なごや医療モデル」を推進してまいります。



名古屋市立大学病院

理念

地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、高い専門性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成します

基本方針

- ・名古屋都市圏の中核医療機関として、高度先進かつ先端医療を提供し、市民の健康と福祉を増進します
- ・高度情報化のもとに開かれた医療を提供し、情報公開と医療安全に努めます
- ・救急・災害医療センターを開設し、救急・災害医療機能を強化します
- ・医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・優れた医学研究の推進を通じて、社会に貢献します

所在地 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

許可病床数 800床

診療科目 内科／消化器内科／肝臓内科／膵臓内科／呼吸器・アレルギー疾患内科／リウマチ科／循環器内科／内分泌・糖尿病内科／血液・腫瘍内科／脳神経内科／腎臓内科／外科／消化器外科／呼吸器外科／心臓血管外科／小児外科／乳腺外科／形成外科／整形外科／産婦人科／小児科／眼科／耳鼻いんこう科／皮膚科／泌尿器科／小児泌尿器科／精神科／放射線科／麻酔科／脳神経外科／歯科口腔外科／救急科／リハビリテーション科／病理診断科／臨床検査科

基本情報 特定機能病院／地域がん診療連携拠点病院／肝疾患診療連携拠点病院／救命救急センター／地域中核災害拠点病院／総合周産期母子医療センター／日本医療機能評価機構認定病院（「機能種別 一般病院3」3rdG:Ver.2.0）／がんゲノム医療連携病院



名古屋市立大学病院は、1931年に名古屋市民病院として発足以来、地域の中核医療機関として高度かつ安全な医療を提供してきました。2004年に病棟・中央診療棟、2007年に外来診療棟、2012年には喜谷記念がん治療センターを開設。施設の拡充を図るとともに、地域がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センターの指定を受け、病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）も取得。大学病院としての機能の強化を進める一方、特定機能病院・高度急性期病院として先進的な医療を推進するほか、市民のための病院として、救急医療と災害医療にも注力しています。2024年4月1日現在、当院は800床の病床を有し、35の診療科をはじめ、中央部門、診療技術部門、薬剤部門、看護部門、管理部門からなる充実の医療体制のもと、笑顔と感動にあふれる病院を目指し医療を提供しています。

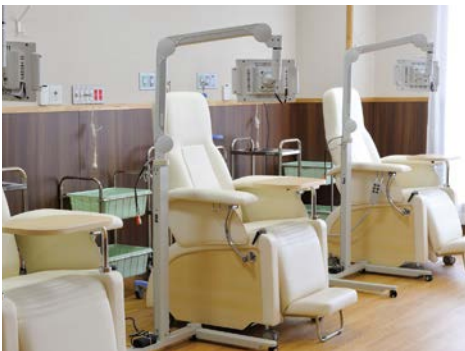
2024年4月1日時点

※現在、当院では、病院敷地内にて2025年度開棟予定の「救急災害医療センター」の建設工事を行っています。工事期間中、安心・安全を第一に努めてまいります。皆さまには大変ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



手術支援ロボット

「da Vinci (ダ・ヴィンチ)」とダ・ヴィンチ手術チーム。



外来化学療法室

リクライニング・チェアとベッドを計36台設置しており、多くの患者さんに化学療法などを受けていただくことができます。



救命救急センター

一般の救急医療機関では対応できない重篤な救急患者さんに対して、各専門診療科の医師と連携し、高度な医療を総合的に提供しています。

We Are One ~ われわれはひとつ

東部・西部医療センターに続き、「みどり市民病院」「みらい光生病院」が大学病院としてひとつになりました。5つの病院にはそれぞれ異なる特徴がありますが、緊密な連携で、どの病院を受診されても安全で先進の医療を受けることができます。

名古屋市立大学病院では、2025年夏の救急災害医療センターの開棟に向けて建設工事が進んでおり、これは救急医療施設として日本最大級となる予定で、現在ここで活躍する人材の育成を進めています。

5つの病院がひとつになり、より大きな力となって市民の皆さまに信頼され、選ばれ、愛される大学病院となるよう、全職員もひとつになって一層精進してまいります。よろしくお願い申し上げます。



名古屋市立大学病院
病院長 間瀬 光人

■ Topics

高度・専門医療

高度急性期病院としてさらなる機能強化を図るため、国産初の手術支援ロボット「hinotori™(ヒノトリ)」を導入しました。従来から稼働の「da Vinci (ダ・ヴィンチ) Xi」2台とともに先進のロボット支援手術を提供します。2024年度には手術支援ロボットを1台増設する予定です。

手術支援ロボット「hinotori」による手術の様子



がん医療

がん医療においては、フォトンカウンティング検出器搭載2管球CT「NAEOTOM Alpha (ネオトム アルファ)」を導入しました。従来のCTと比べて少ない被ばく量で鮮明なCT画像を提供できるため、患者さんの検査にかかる負担を減らしつつ正確で包括的な検査が可能となります。また、最先端機器の導入だけでなく、2022年度には、メラノーマ (悪性黒色腫) を専門とするメラノーマセンター、食道がんや機能性食道疾患などの食道疾患を専門とする食道疾患センターを新設し、複数の診療科の医師によるチーム医療によって、がん医療の質の向上と充実に努めています。

フォトンカウンティング検出器を搭載した次世代CT「NAEOTOM Alpha」



医療人の育成

医師の初期臨床研修プログラムでは、東部・西部医療センターとともに附属病院群として連携した研修を行っています。看護師、薬剤師や医療技術職員については、それぞれの専門職種としてのキャリアパスを意識し、附属病院群、学部及び関連機関と連携しながら育成を行っています。2023年度には附属病院群の医療人のキャリア支援やスキルアップの体制を強化するため、医療人連携・育成センターを新設しました。次世代の医療・医学を支える医療人育成をさらに充実してまいります。

研修の様子





名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター

理念

安全かつ高度な医療を提供し、
市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します

基本方針

- ・心臓血管・脳血管疾患・がんなどに対する高度・専門医療の充実に努めます
- ・救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします
- ・第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします
- ・地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- ・医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います

所在地

名古屋市千種区若水一丁目2番23号

許可病床数

498床（一般病床488床・感染症病床10床）

診療科目

内科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／腎臓内科／脳神経内科／血液・腫瘍内科／
内分泌・糖尿病内科／疼痛緩和内科／感染症内科／外科／呼吸器外科／消化器外科／心臓血管外科／
脳神経外科／乳腺・内分泌外科／小児外科／整形外科／形成外科／精神科／小児科／皮膚科／泌尿器科／
小児泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／リハビリテーション科／放射線診断科／放射線治療科／
病理診断科／救急科／麻酔科／歯科口腔外科

基本情報

地域医療支援病院／DPC特定病院群指定（2024年6月）／救命救急センター／地域中核災害拠点病院／
日本医療機能評価機構認定病院（「機能種別 一般病院2」3rdG:Ver.2.0）／第二種感染症指定医療機関



1890年、伝染症患者のための隔離病舎を愛知県から引き継ぎ、1901年に避病院として開設。1957年に現在地に移転改築し、名古屋市立東市民病院に改称しました。以来、救急診療棟、心臓血管センター・脳血管センターを次々に開設し、地域の中核病院として救急医療をはじめ、心臓血管・脳血管疾患に対する高度・専門医療の分野で地域医療に貢献。2011年5月名古屋市立東部医療センターに改称後、2013年には地域医療支援病院に承認されました。2015年には救急・外来棟を、2020年には入院・診療棟を開棟。2021年4月より名古屋市立大学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属東部医療センターと改称。365日24時間患者さんを受け入れる「断らない救急」の実現と高度医療のさらなる充実・強化を目指しています。

2024年4月1日時点



ヘルスケアアートで装飾された入院・診療棟



令和6年能登半島地震におけるDMATの派遣



患者さんとの交流（世界糖尿病デー）

躍進する東部医療センター

大学病院化から早3年、市民の皆さまに「命を守る高度・専門医療」が提供できる体制を日々充実して参りました。救急車の応需は年間8,000台に達する勢いで、救命救急センターとして多くの重症患者を受け入れて地域救急医療に貢献しております。また、当院の役割である感染症診療におきましては、延べ約20,000人（2023年12月末現在）に及ぶ入院に対応した新型コロナウイルス感染症パンデミックが終息に向かう中で、新興感染症対策への重要施策として、当院に感染症学分野の設置が認められることとなりました。今後は感染症専門医養成を通じて地域の感染症診療に一層の貢献ができるものと確信しております。加えて、合併症の多い高齢者がん診療の中心医療機関となるべく、すでに複数のがん専門医を教授として招聘し、がん診療体制の充実・強化を本格的に進めております。引き続きのご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。



東部医療センター
病院長 大手 信之

■ Topics

がん診療機能の強化

東部医療センターでは救命救急や脳血管・心血管疾患治療に重点を置き医療を提供してきましたが、現在、各診療科において手術、化学療法、放射線治療等のがん専門治療を通じて地域医療への更なる貢献に取り組んでいます。2022年4月には各部門を統括する組織を立ち上げました。今後も包括的かつ全人的な治療を実践し、さらなるがん診療の機能強化や体制整備を進めていきます。



放射線治療装置

救急医療

従来からの心臓・大動脈疾患、脳卒中、感染症の救急診療に加え、重症外傷・小児救急を受け入れる体制を確立しました。救命救急センターとして重症患者の診療に注力し、さらに名古屋市民の急性期医療に貢献することを目指し、救急搬送の応需件数8,700件に向けた体制作りをしています。



救命救急センター

感染症医療

2020年に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者を名古屋市内で初めて受け入れ、2021年3月には新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染症患者専用病床を新たに22床整備するなど第二種感染症指定医療機関として、名古屋市の感染症医療の中心的役割を果たしました。今後は、次なる新興感染症に備えて感染症専門医の養成に取り組めます。



2重扉と陰圧室を備えた
感染症患者専用病床



名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター

理念

地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するとともに優れた医療人を育成します

基本方針

- ・公立大学病院の使命を自覚し、安心安全で質の高い医療を提供します
- ・がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます
- ・地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- ・充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます

所在地

名古屋市北区平手町1丁目1番地の1

許可病床数

500床

診療科目

内科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／腎臓・透析内科／脳神経内科／血液・腫瘍内科／内分泌・糖尿病内科／外科／呼吸器外科／消化器外科／脳神経外科／乳腺・内分泌外科／小児外科／整形外科／形成外科／精神科／児童精神科／リウマチ科／小児科／小児アレルギー科／小児科（新生児）／皮膚科／泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／リハビリテーション科／放射線診断科／放射線治療科／病理診断科／麻酔科／歯科口腔外科

基本情報

地域医療支援病院／地域がん診療連携拠点病院／地域災害拠点病院／地域周産期母子医療センター／日本医療機能評価機構認定病院（「機能種別 一般病院2」3rdG:Ver.2.0）／がんゲノム医療連携病院



西部医療センターは、地域の中核病院として親しまれてきた城北病院と城西病院を前身とします。2011年にクオリティライフ21城北内の現在地に新築移転し、両院を統合した名古屋市立西部医療センターとして運営を開始。以来、小児・周産期医療、がん医療、脊椎医療、救急医療の拡充に取り組んでまいりました。2013年2月には、名古屋陽子線治療センターを開設し、東海3県で初めてとなる陽子線がん治療をスタート。また同年9月には地域医療支援病院の承認、2019年4月には地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。2021年4月より名古屋市立大学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属西部医療センターに改称。地域に根差した大学病院として今後ますます存在感を発揮しながら、地域に住む皆さまに安全で質の高い医療を提供してまいります。

2024年4月1日時点



NICU・GCUでは、最先端の医療機器とチーム医療で小さな命を守ります。



2023年9月に、従来行ってきた男性不妊症、不育症に加え本格的に生殖医療に取り組むため、「生殖医療センター」を開設しました。



4階屋上庭園「ひだまりの丘」は、癒しの場であるだけでなく、屋外リハビリ場としても利用されています。

さらに信頼され、愛される大学病院を目指して

西部医療センターは小児・周産期医療、がん医療、脊椎医療を中心に、高度かつ安心・安全な医療を提供するとともに、他の4病院と一体となり優れた医療人の育成に努めています。2023年6月には硬膜外分娩（いわゆる無痛分娩）を一部導入し、同年9月には従来行ってきた男性不妊症、不育症に加え本格的に生殖医療に取り組むため「生殖医療センター」を開設しました。陽子線治療センターでは2022年度の治療件数が891件となり、3年連続で全国最多の治療を行っています。「地域に根差した大学病院」を理念として地域の医療機関の皆さまとの連携をより一層深め、市民の皆さまにさらに信頼され、愛される病院をめざして、全力で取り組んでまいります。どうかご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



西部医療センター
病院長 大原 弘隆

■ Topics

小児・周産期医療

地域周産期母子医療センターとして、NICU（新生児集中治療室）やGCU（新生児回復室）を備え、安全なお産を一丸となってサポートしています。「BFH：赤ちゃんにやさしい病院」として母乳育児支援にも力を入れているほか、小児医療センターでは、0歳から15歳までのお子さんに対する高度専門医療と生活指導を提供しています。



安心して出産・育児ができるよう、入院中から退院後まで継続した支援を行っています。

がん医療

地域がん診療連携拠点病院として、多職種によるチーム医療を推進し、手術や放射線治療・薬物療法による高度ながん医療を提供します。2013年2月に開設した陽子線治療センターでは、苦しまないがん治療の実現を目指し、生活の質を維持しながら行えるがん治療を提供しています。また、NPO法人やハローワークと連携したピアサポート・就労相談を行っています。



陽子線治療センターのガントリー照射室
ガントリーを360°回転させることで、どの方向からでも陽子線を照射できます。

脊椎医療

高齢化社会となり、脊椎疾患を抱える患者の数は増加傾向にあります。脊椎センターでは、投薬やリハビリ等による保存的治療から顕微鏡による低浸襲手術、側弯や後弯の矯正に注力しています。また、長期化しがちな椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症に対し、早期の社会復帰が可能な医療を提供しています。難治性の歩行障害については、整形外科・脳神経内科・脳神経外科により、多職種で評価し治療しています。



O-arm™により手術中に360°方向から撮像を行うことで、精度の高い手術を行うことができます。



名古屋市立大学医学部附属 みどり市民病院

理念

地域の健康未来を創造する大学病院として、
安全で高度な医療の提供とともに地域医療の持続的発展に貢献する医療人を育成します

基本方針

- ・急性期医療及び回復期医療をワンストップで提供し、「治し支える医療」を実践します
- ・安全で高度かつ先進的な医療の創出とともに、地域医療のニーズに的確・迅速に応えます
- ・地域包括ケアシステムの深化・発展に寄与し、地域との調和及び共生を目指します
- ・「地域を診る心」と「常に学ぶ心」を大切にする誠実で優れた医療人を育成します
- ・先制的かつ集学的な予防医学研究の推進により健康社会の実現に貢献します

所在地 名古屋市緑区潮見が丘一丁目77番地

許可病床数 205床

診療科目 内科／消化器内科／呼吸器・アレルギー疾患内科／リウマチ科／循環器内科／内分泌・糖尿病内科／血液・腫瘍内科／脳神経内科／腎臓内科／外科／消化器外科／呼吸器外科／心臓血管外科／小児外科／乳腺外科／形成外科／整形外科／産婦人科／小児科／眼科／耳鼻いんこう科／皮膚科／泌尿器科／精神科／放射線科／麻酔科／脳神経外科／救急科／リハビリテーション科／病理診断科／臨床検査科



1945年に旧愛知郡鳴海町国民健康保険組合診療所として開設し、名古屋市南部の地域密着型の中核的病院として役割を果たしてきました。1963年に名古屋市が愛知郡鳴海町を編入合併したことに伴い、名古屋市立緑市民病院へ改称。人口急増地区であることから、南館増築と本館の全面改修を経て、患者増に対応するための病床整備を実施。さらに1996年からの2か年計画で北館増設工事をおこない、診療体制の整備充実を図りました。その後2012年に指定管理者制度を導入し11年間の指定管理期間を経て、2023年4月に名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院として運営を開始。前身の緑市民病院の医療を引継ぎつつ、地域密着型の大学病院として、安全かつ高度な地域医療のニーズに対応した医療の提供に努めてまいります。救急の初期対応をはじめ多様な疾患に対する治療を行うとともに、予防医療など地域住民の健康づくりを支援します。 2024年4月1日時点



2024年2月に更新したMRI



ヘルスケアアートで装飾された
1階待合大鏡



見晴らしの良い環境での
リハビリテーション

MIDORI reborn -みどりの心で-

2023年4月より市立緑市民病院は名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院として新たな医療チームのもと再生いたしました。

緑区・名古屋南部の地域密着型大学病院として市立病院時代の標準的な医療を深化・重層化し急性期から回復期医療までの「治し支える医療」をワンストップで実践いたします。ロボット支援整形外科手術やAI診断内視鏡など安全かつ高度先進的医療の提供、新興感染症等への対応に加え地域連携パスなどを核に地域医療機関との協働推進で地域包括ケアシステムの発展に寄与させていただきます。建替えの検討を始めた新病院では、緑区を中心に加速増大する高齢化や災害リスクに対し、行政とも協力しながら自律的に地域医療を持続支援できる機能規模を計画しております。医学部附属病院群とのシームレスな診療連携を基に患者さんの幸せを追求する『みどりの心』で地域医療の持続的な発展と幸せな健康未来の創出に貢献してまいります。



みどり市民病院
病院長 浅野 実樹

■ Topics

人工関節支援ロボット Mako (メイコー) システムを導入

整形外科は関節・スポーツの治療に特に力を入れております。2023年9月より、コンピューター制御されたロボティックアームを用いた手術支援システム「Mako」を導入し、一般的な外傷治療はもとより、専門的な人工関節、靭帯再建なども含め、地域の皆さまが安心して治療し、笑顔で社会復帰できるようサポートさせていただきます。



AI内視鏡を用いた大腸内視鏡検査を実施

2023年4月より、AIを用いた病変検出システムEndoBRAIN-EYE®を導入し、見逃しの少ない精度の高い大腸内視鏡検査を実施しています。精度の高い検査を提供することで、疾患の早期発見・早期治療を行い、地域の皆さま、患者さんの健康を維持できるよう努めてまいります。



2次救急の受入れ対応

緑区を中心とした地域の皆さまに安心していただけるような救急医療の提供に取り組んでいます。名古屋市の2次救急医療機関として、傷病者の状態に応じた医療を提供し、「かかりつけ医」や各急病センターからのご紹介患者さんの受入れにも対応しております。また、平日夜間・土曜午後には小児救急外来も行っております。さらに、救急動線の改善及び2次救急へのスムーズな対応のため、救急外来を移転・拡張します。(2024年5月末以降完成予定)





名古屋市立大学医学部附属

みらい光生病院

理念

「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を地域と連携して提供するとともに、百寿社会に資する先端研究を行い、優れた医療人を育成します

基本方針

- ・横断的な診療を担うセンター機能の提供による先駆的な医療を提供します
- ・自立・自活や生活の質 (QOL) の向上に向けて、心身機能回復・維持を目指した医療を提供します
- ・地域包括ケアの拠点として臨床・イノベーションを推進します
- ・高い専門性と倫理観を持ち、医療・介護を支える優れた人材を育成します
- ・健康長寿に資する臨床研究とデータサイエンスに取り組みます

所在地 名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地

許可病床数 140床

診療科目 脳神経内科／消化器内科／呼吸器内科／循環器内科／内分泌・糖尿病内科／血液内科／腎臓内科／整形外科／耳鼻いんこう科／眼科／皮膚科／泌尿器科／婦人科／放射線科／精神科／リハビリテーション科／歯科口腔外科／病理診断科



1951年、医療法に基づく病院及び生活保護法に基づく医療保護施設として開設。1982年に現在地に移転改築し、厚生院附属病院と改称しました。2000年4月には、介護保険法の施行に伴い、病院の一部を指定介護療養型医療施設に転換しました。2023年4月より名古屋市立大学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院と改称するとともに、一部の病棟を回復期リハビリテーション病棟に転棟。認知症やフレイルへの対応のほか、先駆的な技術を駆使しながら、患者さんのニーズに合わせたリハビリテーションを実施し、入院時から在宅生活を視野に入れた治療の提供と退院支援等、質の高い医療を提供してまいります。また、大学病院化を機に、専門外来を新たに開始し、様々な疾患に対して、関連する診療科が連携して横断的に診療を行う体制を設けております。

2024年4月1日時点



3.0T MRIを新規導入
※共同利用検査をご利用いただけます



Brain Machine Interface (BMI) を愛知県内初導入
※上肢機能を改善することを目的に使用する治療機器
(未承認医療機器)



ヘルスケアアートで装飾されたエントランス
※名東区の木であり、本院敷地内にも植えられているケヤキをモチーフとしています。
花言葉は「幸運・健康・長寿」。

「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を

2023年4月1日より名古屋市厚生院附属病院は「名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院」として新たな診療体制となりました。専門外来を構えて各科が連携してワンストップで診療を行うセンター方式により「脳神経・内臓機能・運動機能・感覚器機能・やせと肥満の代謝機能」の回復・ケアを進めていきます。そして、そこから必要な先進リハビリへと繋いでいきます。さらに、各種レーザー機器を取り揃えたアンチエイジングケアにも取り組みます。また、術後や急性期治療後の患者さんを受け入れて回復期リハビリを行い在宅への復帰を目指します。元気で長生きしていただくための医療が提供できますように精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



みらい光生病院
病院長 妹尾 恭司

■ Topics

センター機能

関連する診療科が連携して横断的に診療を行う体制を設けております。

脳神経医療センター

脳、脊髄、神経及び筋肉などに関する様々な症状に対して、原因疾患を特定します。特に、認知症については、疾患別の進行速度や症状に応じて治療を行います。

先進リハビリセンター

活動の制限をきたしている脳卒中・脳外傷後遺症、骨・関節疾患、神経・筋疾患、脊髄損傷、サルコペニアなどに対して、最先端のリハビリテーション治療を行います。

内臓機能回復センター

心不全、呼吸不全、誤嚥性肺炎、逆流性食道炎、胃腸・肝障害、貧血、睡眠時無呼吸症候群、慢性腎臓病、夜間頻尿や尿もれ・尿失禁などに対して、薬物治療やリハビリテーションなどを行います。

運動機能回復センター

フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの評価及び予防、運動器疾患の治療などを行います。

感覚器機能ケアセンター

感覚器に関連する（聴覚・視覚・皮膚・音声・平衡・嚥下・味覚・口腔など）機能障害や低下に対して、診断及び治療・リハビリテーションを行います。

やせと肥満の代謝機能回復センター

糖尿病、脂質異常、高血圧だけでなく、やせ、サルコペニア、肥満症、かくれ肥満症、サルコペニア肥満症などに対して、寛解を目指す治療を行います。

アンチエイジング・レーザーケアセンター

若々しく健康的・活動的に人生を送れるよう、皮膚・眼・耳・鼻・口腔内のケアを行います。また、保険治療のほかに、最先端のレーザー機器を用いた自費治療も取り入れ、幅広く治療にあたります。

地域医療機関の皆さまへ 地域連携のご案内

名古屋市 北区



名古屋市立大学医学部附属
西部医療センター

- 診療予約
TEL:052-991-8145 FAX:052-856-0049
- 診療予約受付時間
平日 8:45 ~ 20:00 土曜 9:00 ~ 13:00
- 退院支援
TEL:052-856-8122 FAX:052-855-0666

名古屋市 名東区



名古屋市立大学医学部附属
みらい光生病院

- 診療予約
TEL:052-704-9555 FAX:052-704-2790
- 診療予約受付時間
平日 8:45 ~ 19:30 土曜 9:00 ~ 12:30
- 退院支援
TEL:052-704-9566 FAX:052-704-2790

名古屋市 千種区



名古屋市立大学医学部附属
東部医療センター

- 診療予約
TEL:052-723-7359 FAX:052-723-7356
- 診療予約受付時間
平日 9:00 ~ 20:00 土曜 9:00 ~ 13:00
- 退院支援
TEL:052-726-3117 FAX:052-726-3107

名古屋市 瑞穂区



名古屋市立大学病院

- 診療予約
TEL:052-858-7131 FAX:052-858-7130
- 診療予約受付時間
平日 8:30 ~ 19:00 土曜 8:30 ~ 12:30
- 退院支援
TEL:052-858-7425 FAX:052-858-7426

名古屋市 緑区



名古屋市立大学医学部附属
みどり市民病院

- 診療予約
TEL:052-892-1331 FAX:052-892-6975
- 診療予約受付時間
平日 8:45 ~ 19:00 土曜 9:00 ~ 13:00
- 退院支援
TEL:052-892-1334 FAX:052-892-1315

※掲載の地図は名古屋市を簡略化したものです。

— 外来診療は予約制です —

ご紹介いただく際は、事前に診療予約をお願いします。

取組紹介

取組 1

附属病院群 × 芸術工学部
～附属病院群に広がるヘルスケアアート～

名古屋市立大学は、文化庁の「大学における文化芸術推進事業」に2018年度より5年の期間、採択され、「未来につなぐヘルスケア・アートマネジメント人材育成事業」を推進してきました。本学の附属病院群においても、ヘルスケアアートを積極的に推進しており、名古屋市立大学病院の小児科病棟や、東部医療センターの入院・診療棟など5つの附属病院すべてでヘルスケアアートが活用されています。



名古屋市立大学病院 小児科病棟のヘルスケアアート

取組 2

名市大の新たな形での社会貢献
「名市大ブックス」シリーズ

名古屋市立大学医学部附属病院群に所属する医師や看護師らが多数執筆しています。2024年4月時点で第16巻まで出版しており、本学の新たな社会貢献の形として地域に定着しています。



出版した名市大ブックスシリーズ



詳細は右の二次元コードからご覧いただけます。

取組 3

令和6年能登半島地震に
DMAT・DPATを派遣

2024年1月1日（月）に発生した令和6年能登半島地震に対して、本学医学部附属病院群から災害派遣医療チーム（DMAT）及び災害派遣精神医療チーム（DPAT）を派遣しました。

また、災害支援ナース、臨床検査技師の派遣や被災地から広域医療搬送された患者の受入れを行うなど、さまざまな医療支援に取り組みました。



出発時の東部医療センター DMAT第1班（1月2日）

取組 4

医学部附属病院群の初期臨床研修で
2年連続の完全フルマッチ達成！

2023年度の初期臨床研修医のマッチングにおいて、受け入れを行っている名古屋市立大学病院、東部医療センター、西部医療センターの3病院で完全フルマッチ（100%で全国同率1位）を2年連続で達成しました。

特に上記3病院の研修医相互乗り入れ救急当直システム（NEW-E）は、各病院の2年次研修医が連携して救急医療を行いつつ、1年次研修医の指導も行うことで、名古屋市の救急医療を支えることを目的とした取り組みとして、全国の医学生にとってインパクトの強いものになっています。



名古屋市立大学病院 総合研修センター教員、初期研修医での記念撮影

名古屋市立大学病院

〒467-8602
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL:052-851-5511

外来受付時間
月曜～金曜 8:30～11:00

- 地下鉄
桜通線「桜山」駅より徒歩すぐ
- 市バス
地下鉄「栄」駅より
「栄26」博物館行「市立大学病院」下車
JR・名鉄・地下鉄「金山」駅より
「金山11」池下行「桜山」下車
「金山16」瑞穂運動場東行「桜山」下車
「金山12」妙見町または
金山行「市立大学病院」下車
「金山14」瑞穂運動場東行(桜山経由)
「市立大学病院」下車



名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター

〒464-8547
名古屋市千種区若水一丁目2番23号
TEL:052-721-7171

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～11:30

- 地下鉄
東山線・桜通線「今池」駅より徒歩約10分
東山線「池下」駅より徒歩約13分
- 市バス
地下鉄「千種」駅より「千種11」「千種13」
地下鉄「池下」駅より「池下11」「千種巡回」
地下鉄「今池」駅より「東巡回」「池下11」
「千種11」「千種13」「千種巡回」
地下鉄「砂田橋」駅より「東巡回」「千種11」
「東部医療センター」下車
地下鉄「大曾根」駅より「吹上11」
「都通二丁目」下車



名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター

〒462-8508
名古屋市北区平手町1丁目1番地の1
TEL:052-991-8121

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～11:30
(陽子線治療センターは完全予約制)

- 地下鉄
名城線「黒川」駅より徒歩約15分
鶴舞線「庄内通」駅より徒歩約15分
- 市バス
地下鉄「栄」駅より「栄11」
地下鉄「黒川」駅より「幹栄1」「名駅15」
「北巡回」
地下鉄「名古屋」駅より「名駅15」
「西部医療センター」下車
地下鉄「名古屋」駅より「名駅13」
「又穂住宅東」下車



名古屋市立大学医学部附属 みどり市民病院

〒458-0037
名古屋市緑区潮見が丘一丁目77番地
TEL:052-892-1331

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～11:30

- 市バス
地下鉄「鳴子北」駅より
「幹鳴子1」「鳴子13」「鳴子14」「鳴子15」
「みどり市民病院」下車
名鉄名古屋本線「鳴海」駅より
「新瑞12」地下鉄徳重行
「鳴子15」地下鉄鳴子北行
「みどり市民病院」下車
- 名鉄
名鉄名古屋本線「鳴海」駅より徒歩約15分



名古屋市立大学医学部附属 みらい光生病院

〒465-8650
名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地
TEL:052-704-2345

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～15:30

- 地下鉄
東山線「本郷」駅より徒歩約20分
- 市バス
地下鉄「本郷」駅より「幹本郷1」
地下鉄「平針」駅より「幹本郷1」
「障害者スポーツセンター」下車

